いわき民報

發行所
いわき民報社
平市田町一番地（電話三八一番）
編輯兼發行人兼印刷人　千輝克己
定價　一ヶ月壹圓廿錢　一部四十錢

本紙講讀申込所
平市田町一番地　電三八一　いわき民報社
平市白銀町　電八八四　平新聞共販第一配給所
平市田町　電五三二　平新聞共販第二配給所

社說

棄權は賣國

誤るな一票の行使

三旬に亘つた總選擧もいよいよ今日最後の終止符が打れる事になつた、今次選擧は憲法の改正その他重要なる課題を幾多與へられてゐるばかりか實に吾等がポツダム宣言に則つての民主々義化日本再建の形式上の第一步として列國は異常な關心をもつて、この選擧結果を注視してゐる、從つて萬一吾等が一票の行使を誤り、列國に日本の民主化未しの感を與へんか、日本の再建は勿論、獨立國家として國際場裡に平等に列國と肩を並べることが許されないのである、從つて聯合國の日本管理が一段と嚴しさを加へると共に、その期間もこれに伴つて長くなるのである、殊に棄權が多い場合なぞ聯合國側が如何なる態度に出るか、その豫測は極めて簡單である

議員選擧は國民としての權利であると同時に道德的義務でもある、故に棄權はたゞ單に義務の懈怠であるのみでなく、吾等の祖國日本の再建を阻む、極言するならば賣國的行爲でもあるといへるのである、かく觀じ來れば吾等の一票は小さい乍らも尊く、偉大なるもの哉であり、棄權は絕對に許されない、特に今後の日本を背負つて立つべき靑年や婦人の棄權は一票といへどもあつてはならない

更らにその行使に當つては、マツカーサー司令部に於いて、例へ當選者といへ嚴たる資格の再審査を實行、不適格と認める者は追放するばかりか場合に依つては再解散をも斷行せしめるとの意向を示してゐる點に鑑み徒らに泣き落し戰術や、物資や浮ついた宣傳戰術等には[illegible]迄も迷はされず、眞底新日本再建のために吾等の代表として恥しからぬ信念の人物を、嚴正公平に選んで行使、苟しくもいかゞはしい態度ある候補は斷乎排撃すべきである

すべての政治は吾等の生活に直結されるのである、吾等のよき生活を望むものは即ちよき政治の實現を期さねばならないのである、この點からみても今回の投票にはいさゝかの誤りも許されない、吾等は以上のことを深く銘記し今日こそ正しい一票の完全行使をしやう

再びいふ、祖國日本の運命は吾等の一票にかゝつてゐるのであると

總選擧こゝに終幕

既成勢力の地盤搖がず

熾烈極めたポスター戰

政治史上かつてみぬ重大な總選擧も、完全に終止符が打れた、選擧民の審判は果して如何に下されるか？勝利の榮冠に頰笑むものは自由黨か、進步黨か、さては社會黨か？又新有權者の婦人連の投票は？等々各角度から明十一日の開票結果に一般の大きな興味がかけられて待たれる、靜かに三旬に亘つての政戰を顧みると、依然として既成勢力の地盤は固く、新興勢力の進出も目覺しくはあるが、まだその牙城を衝くには至つてゐないやにみられる、今回の選擧で目立つた特色は一般に演說會は低調だつたが、座談會により有權者と候補が膝つき合せての懇談が有効に利用されたのと、ボスター戰に各派が秘策をねつたことで、又期日の切迫と共に街頭演說が一樣に行はれたことも見逃し難い時代の動きを物語るものであつたらう、殊にポスター戰では遺憾なくその色調その他に各候補の特色も盛られ、冷靜に眺めるものゝ興味をそゝつてゐたが、熾烈さを極めたゞけに他派のポスターを破つたり、未だその演說會が終つてゐない中にそのボスターの上に貼るもの等々が多く選擧道德の無視せられたのは、新日本建設の使命を帶びた政戰だけに遺憾とされることだつた

郡下からは二名か

巧くゆけば三名

全縣一區定員十三名の選擧だけに、選擧民の興味は郡下から果して何名の代表を議會に送り得るかにかけられてゐるが、先づ內輪にみて進步、自由兩黨から各一名宛、巧くゆけば自由黨一名の進步黨二名どの觀測が下されてゐる、當落は別に社會黨の大井川、松井兩候補の何れが多く勞働階級をつかんだか、映畫ファンの支援に鈴木候補がどこまで子女層を獲得したか等々にも大きな注目が拂はれてゐる、たゞ共產黨は何處へいつても日を經るに從つて支援を失つてゐるやうに見受けられたのは、今後の全黨のあり方に敎ゆるところがあつたであらうといひ得るであらう

惡質候補斷乎排擊

民主化の確立を期せ

大詰に迫つたこゝ數日各候補の陣營は一樣に緊張、婦人達がどこまで投票するか、その選擧觀はどうか全く見當がつかぬためこれらの婦人達を相手に如何なる手を打つべきかに苦慮をつゞけた、從つて隨分思ひ切つた手をも打つた向もあると聽く、勝てば官軍、是が非でも當選せねばと、折角の自由民主も何處へやら、たゞ相手方候補の惡口を並べ立てゝ最後に泣の一手を用ひるもの、勞働者の味方は自分一人といつた如くに自我自讚、押しの一手でゆくもの、さては景品付の賣出しの如き手を打つもの等々が續出、相も變らぬ島國根性をさらけ出してゐた、果してこれが民主々義下に堂々名乘りをあげた候補の態度であらうか、われ〳〵はかゝる候補にだまされてはならない、かゝる候補が當選した曉の日本を考へてみよ、新日本建設どころか逆に亡國に導くものであらう、飽までも吾々は嚴正公平に日本の立場を正視すると共に、鋭くも各候補の態度や行爲にメスを加へ排擊することこそ日本再建の鍵となるべき點をはつきりと認識し、今日の尊い一票の行使を誤つてはならない

君等の祖國へ歸れ

共產黨へ市民の反擊

『共產黨口先だけは上手でも、過去の歷史のキタナさよ！』街の一角に粹な川柳を混へて猛烈に共產黨排擊運動を展開してゐる話題の揭示板が市民の注目を集めてゐる——これは平市目拔通りの二丁目常陽銀行前の揭示板で、いま酣の選擧ポスター戰に呼應、日本靑年共產同盟常磐地區と天皇制死守を叫ぶ匿名の一市民の論爭、既報の靑共同盟の反撥文に應酬した一市民の厭味宮三さん（？）の貼出である、以下はその市民の注目の的になつたポスターの全文である（原文の儘）

眞に日本を憂へる共產黨員諸君に告ぐ、我等一億心を一にして戰つた（それは例へ間違つた道であつたとしても）我等に弓を射ちかけてた野坂をさながら凱旋か千兩役者を迎へるが如く野坂々々と熱狂する、それにひかへ海外よりの復員者、引揚民に對する我々日本人の態度は果してこれで良いのだらうか？眞に國を憂へて純情一徹花と散つた特攻隊員英靈に相濟むだらうかロシヤを祖國と呼ぶ共產黨諸氏よ、諸氏が政治的に食糧問題を云々するよりモツと諸氏の身近に食糧不足の打開策があらうではないか、諸君が眞に祖國を愛して吳れるならば諸氏は諸氏の祖國のロシヤに歸り給へ、食糧窮し底をつく日本は只一人の歸國でもそれだけ餓死者が救へるのだ、我々日本人には行くべき國がないのだ、だから君等の歸國を切に待つ！（厭味宮三）

この貼紙が出ると早速共產黨では『天皇制打倒、人民共和政府樹立』のポスターをその上へ大きく貼付け無言の攻擊に移つた

關內正一を落すな

翕然と湧く地方的な支援

今次總選擧では何處へ行つても關內正一氏の評判がよい『關內さんは大丈夫です』街でも村でもこの聲に充滿し、縣の中央も各新聞紙の批判も亦關內を安全候補者と見てゐる、斯くの如く全縣的に一致して評判のよいのは何故であらうか？

それは關內の人格の然らしむる處である、即ち政治に關與して二十余年、私財を投げ出しながら節を持し、市のため町村のため枚擧に遑ない程仕事をしながら少しも誇らず、默々として地方政治に盡粹して來た、戰爭中『市民の生命と財產を保護するため警防團に專念する』と政治家の生命といふべき市會議長の椅子をもサラリと捨て荻原義雄氏に讓つたあたり、關內の面目躍如たるものがあらう、永い間政治に關與し事業的には隨分進出の機會に惠まれ、八方から勸誘受けても絕對に受付けず、家業の油屋から一步も出てゐない、斯くの如き關內の人格に觸れた時、何人をおいても關內を當選せしめねば地方民の恥だと感じられ、評判のよいのは當然過ぎる當然の歸結であると思ふ

だが評判だけでは決して當選しない、否寧ろ優勢だといふ評判が禍ひし、或ひは利用宣傳され『關內は大丈夫だからこちらへ廻せ』と得票を散ずる危險があり『關內を落すな』ガツチリ關內を支持すべきであるとの聲が巷に溢れて來た

自由黨と關內

祖父は民權運動の先覺者

關內正一が自由黨に走つたのは決して偶然ではない、彼の祖父新妻伊左エ門は大浦村の名望家で村長をしてゐたが明治十六年頃から板垣退助、河野磐洲等の自由民權運動に參畫、民權運動では石城地方切つての先覺者であつた、磐洲が晩年に於て自由黨主腦部の冷遇に不滿をもち、一ツには個人的な財政の建て直しを目途し、岩崎家の大番頭大石直己等の勸誘に應じ、本縣の自由黨員根こそぎ擧げて脫黨した際も節を持して斷然踏み止り孤壘を守つて自由黨の後進たる政友會の大なる基盤を作つたものである

當時元代議士の佐藤庄太郎翁は廿代の靑年壯士だつたが新妻伊左エ門を助けて東奔西走、福島縣會で前後二回に亘り多數を占めたのも新妻元老に負ふ處頗る大なるものがあつた

伊藤博文が自由黨の總裁に成るに及んで政友會に改められ、原敬が總裁時代炭礦賣込み問題から白井博之一派が政友會に入黨、自由黨時代からの生え拔き黨員を舊政友、白井一家と共に入つて來たものを新政友と稱し磐城地方で有名な新舊政友は此處から始つたものである、舊政友に屬するものは佐藤庄太郎、木村清治、伊藤淺之助氏等を數へ新政友は鈴木辰三郎、金成通、古川傳一氏等が擧げられ舊政會の解体と同時に關內が眞先きに自由黨へ走つたのは祖父伊左エ門の後を享けた當然の歸結であり伊左エ門の血統を繼いでゐるだけに律義者で、節を持し、直往邁進する氣慨は正に祖父伊左エ門にほうふつたりとは佐藤庄太郎の述懷である

石城の天地には白井一派の政友會入黨を心よしとせず、故田子榮吉、草野三郎等が殘留して比佐昌平を擔ぎ上げ、政友會と對抗する民政黨の地盤を礎いた、民政黨の比佐派に屬するものは現在極めて寥々たるものであるが、今回の大政黨分離で荻原義雄氏を初め大部分は進步黨に入つた、同じ民政黨系でも野崎派に屬する一派は殆んど擧げて自由黨に屬し關內を援けて居り、戰爭中政爭の解消した石城の天地にも今次總選擧に引繼き行はれる市町村會、縣會議員の選擧を中心に活潑な政爭が繰り展げられることにならう

いわきすき言

▼總選擧戰も遂に最終の段階に到達した、中原に鹿を射止めやうといみじくも名乘りを擧げた全候補者は、舌戰に寧日なく、悔ひなき運動を行つたものと思ふが今十日の投票に依つて峻嚴な審判が下されるのである、▽胸に自信ある候補者も、力試しに出たであらう群小候補も、蓋を開くまでは恐らく心臟のトキメキを禁じ得ぬことであらう▼果して眞の民主々義政治成るか？一にかゝつて當選者の双肩にあるのだが、案ぜられるのは國民の選擧に對する關心にある、國民の總意が今次總選擧に寄せられてゐることが立證されぬ限り、眞の民主化も望み薄であつて、マ司令部が留保してゐる再解散も亦總投票數に左右されるものと思惟される、從つて棄權數を最少限度に止るやう心から希望するものである

社告

五月一日より日刊に躍進

本紙は創刊以來印刷設備の不完全から讀者諸子に尠からず御迷惑をおかけしてゐましたが、工場の準備成り、愈々五月一日から日刊紙に飛躍し御期待に添ふて新發足することになりました、漸定處置として今月中は二頁建の週間に更めますが併せて御諒承の上一層の御支援賜らんことを切望致します

いはき民報社

候補者氏名 郡市町村別	數字ハ有權者數	關内正一	進沼龍輔	白岩龜雄	古川傳一	長島菊苗	松井政吉	星一	齋藤晃	大井川幸隆	大井川五郎	鈴木傳明	折笠藤雄	日野定利	八代義定
飯野	2.021														
夏井	1.625														
高久	1.629														
豐間	2.477														
江名	4.010														
鹿島	1.133														
小名濱	10.185														
磐崎	4.036														
湯本	10.514														
內郷	14.440														
好間	8.315														
赤井	4.995														
永戸箕輪	2.506														
澤渡三坂	2.566														
神谷	2.086														
草野	2.714														
大浦	2.705														
四倉	4.084														
大野	2.397														
上下小川	2.576														
川前	1.769														
泉	3.064														
渡邊	1.249														
植田	4.644														
山田	2.448														
錦	3.879														
勿來	6.328														
上遠野	3.087														
入遠野	2.430														
川部	2.875														
田人	3.168														
石城郡	121.955														
平市	14.636														
相馬郡	64.395														
双葉郡	40.184														
小計															
福島市	25.339														
郡山市	27.179														
若松市	28.904														
信夫郡	73.462														
伊達郡	62.119														
安達郡	59.352														
安積郡	46.163														
岩瀬郡	37.747														
兩白河	47.406														
石川郡	62.948														
田村郡	60.115														
南會津	27.698														
北會津	44.888														
耶麻郡	50.169														
兩沼郡	52.795														
合計	947.454														